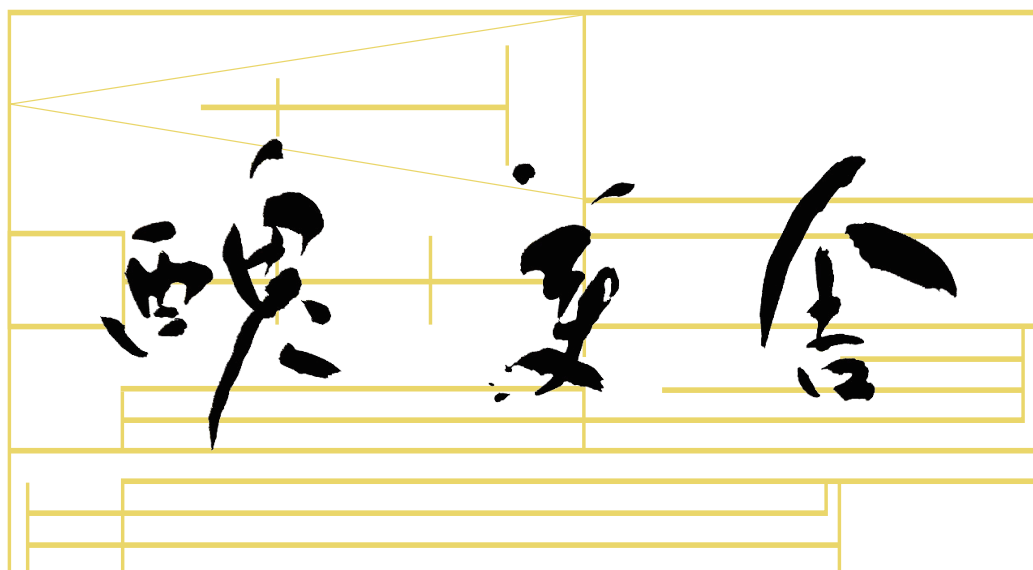


第4回 書・condensted ART 展



「美」の効能？について

万人の認める「美」。

それは、“歴史”を必須条件とする。

ならば、日々という現代において個々人の求める「美」とは？

その理解の一つの方法として、

“何？ コレ？”と思える作品。

この中にこそ、その人の求めている「美」が存在している、

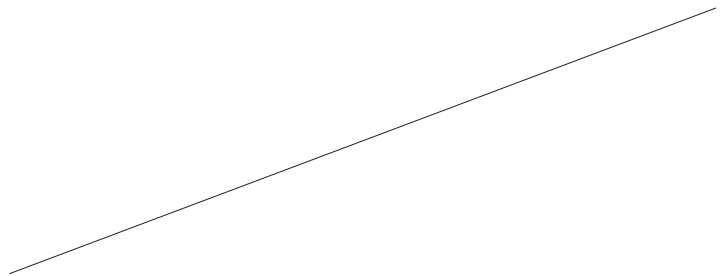
ということ。－見たことない心理－

諸々の分野・世界に“初対面”という現象・事象がある。

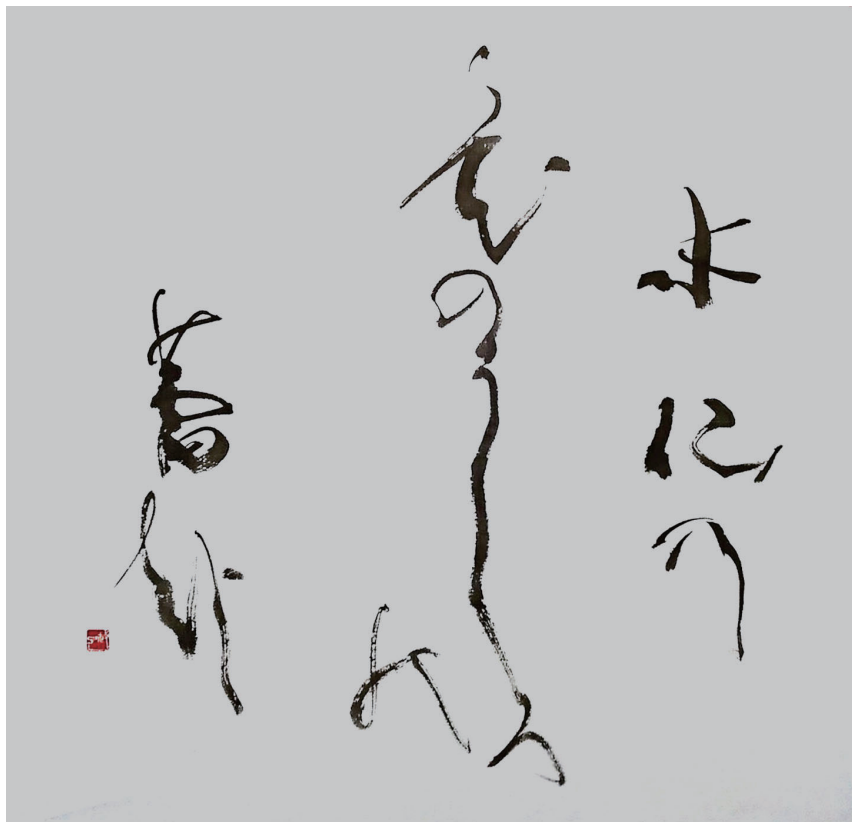
そこには、否応なく感動というものが発生する。

そして、この事は昂揚感を生ぜしめ、

やがて心の糧となるに違いない。



青木敏子
朝倉竜樹
有田裕美
小野俊彦
柿田辰巳
金坂裕美子
草津祐介
藏元訓征
近藤千恵子
杉本輝子
田口良子
飛田博昭
中川道代
早川美妃
古谷照夫
洪明均
水内温子
若松絹代
(50音順)



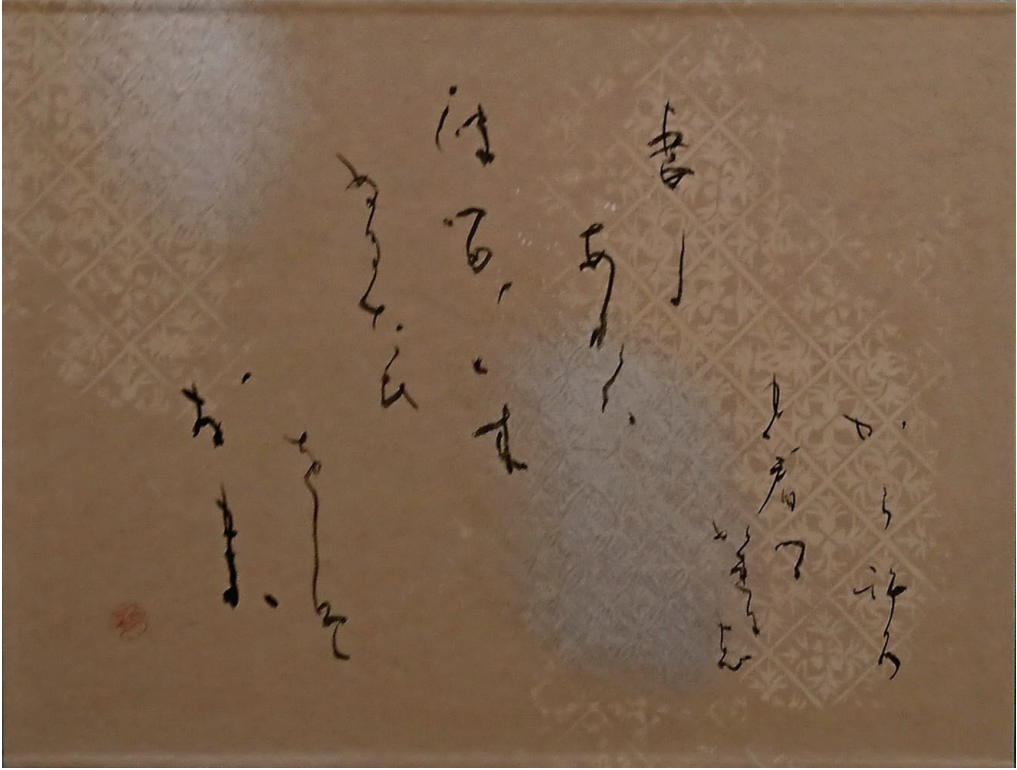
青木敏子 星野立子句 ◆コメント 38 ページ



青木敏子 高桑蘭更句 ◆コメント 38 ページ



朝倉竜樹 正岡子規の句 ◆コメント 38 ページ



朝倉竜樹 から衣 ◆コメント 38 ページ



有田裕美 阿吽 ◆コメント 38 ページ



有田裕美 滴 ◆コメント 38 ページ



小野俊彦 陰-弓より- ◆コメント 38 ページ



小野俊彦 陽一弓よりー ◆コメント 38 ページ



柿田辰巳 黎明 ◆コメント 38 ページ



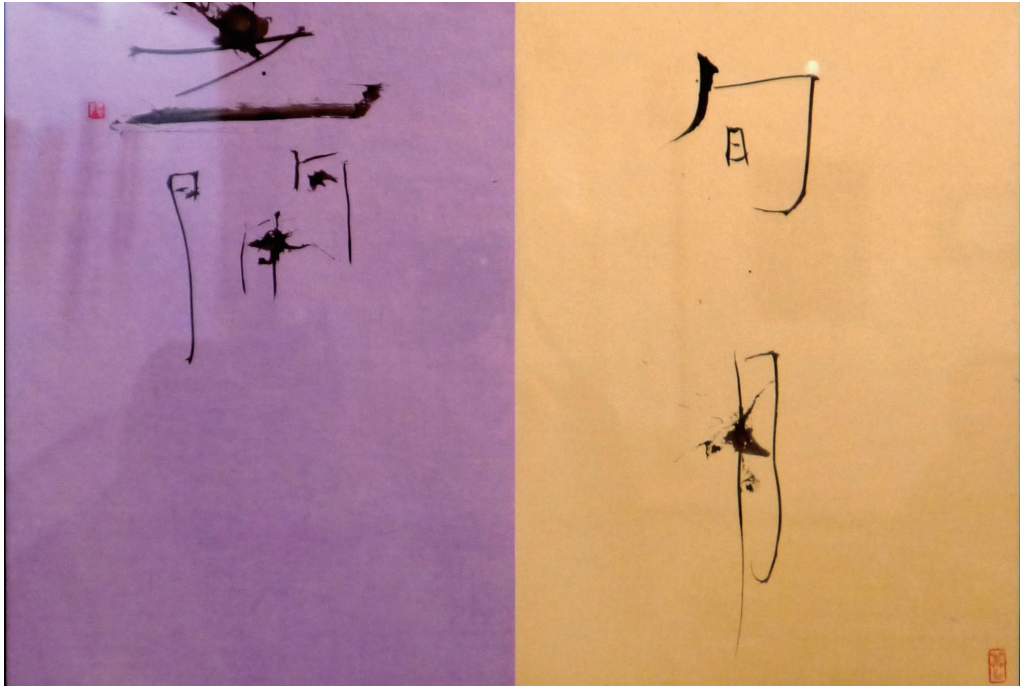
柿田辰巳 梅花の宴 ◆コメント 39 ページ



金坂裕美子 浄潔 ◆コメント 39 ページ



金坂裕美子 静寂そして… ◆コメント 39 ページ



草津祐介 旬月之間 ◆コメント 39 ページ



草津祐介 Graffiti2019 ◆コメント 39 ページ



藏元訓征 シリーズ哲理<陰陽五行>起・承・転・結ー「その転ーC・壊 and 組成」

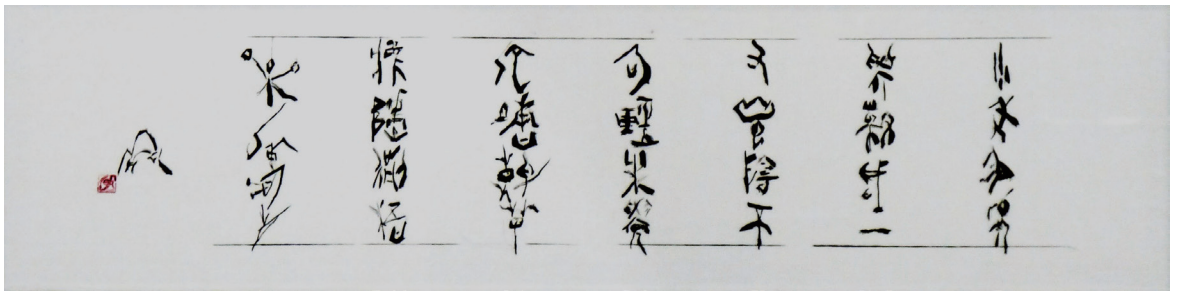
◆コメント 39 ページ



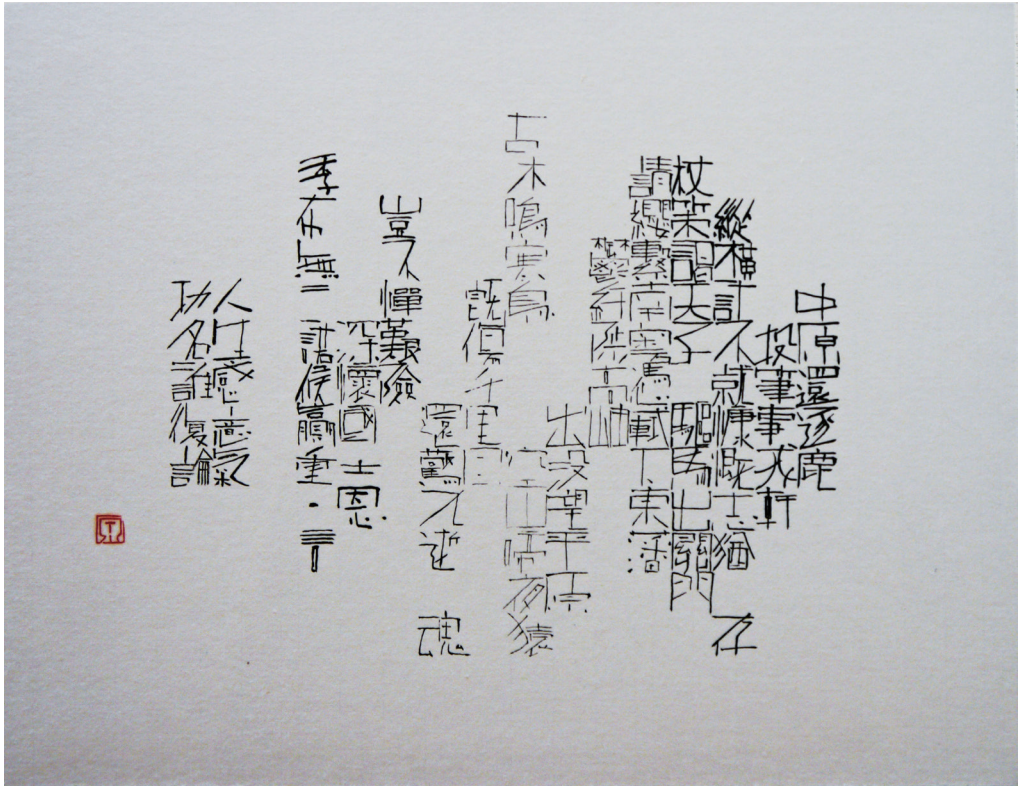
藏元訓征 陶作品－“遙か” ◆コメント 40 ページ



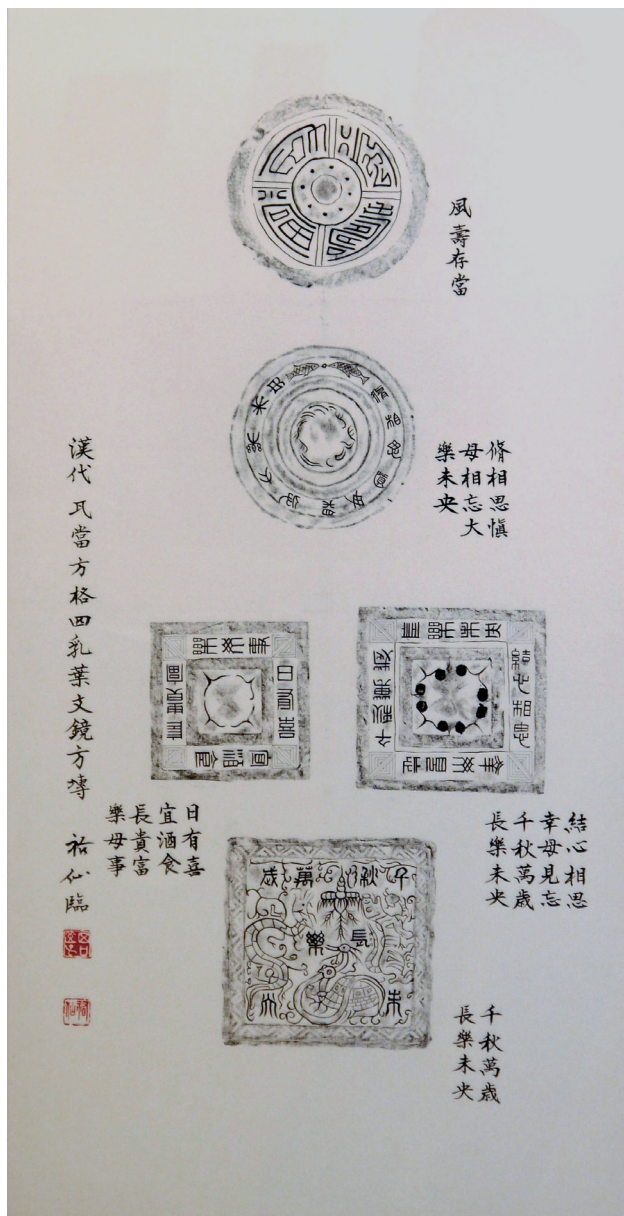
近藤千恵子 江雪 ◆コメント 40 ページ



近藤千恵子 偶成 ◆コメント 40 ページ



杉本輝子 述懷（魏徵） ◆コメント 40 ページ



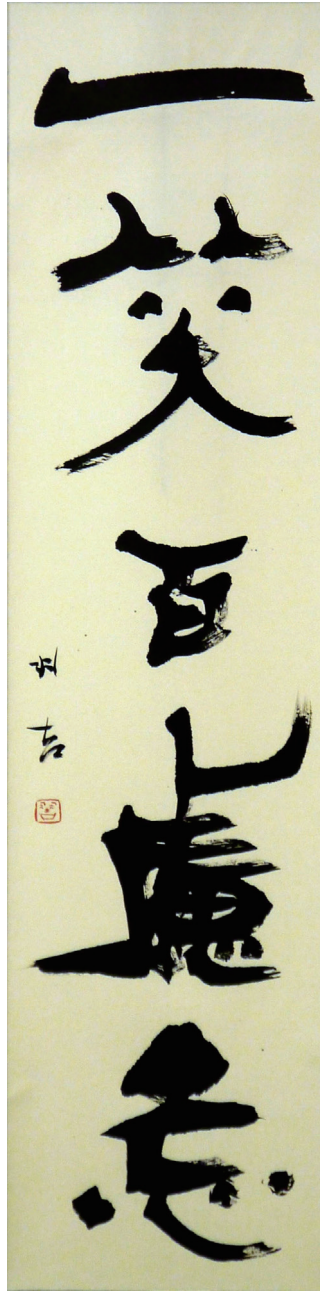
田口良子 漢代瓦當方格四乳葉文鏡方傳（臨書） ◆コメント 40 ページ



田口良子 無一物 ◆コメント 41 ページ



飛田博昭 小川芋銭の句 ◆コメント 41 ページ



飛田博昭 一笑百慮忘 ◆コメント 41 ページ



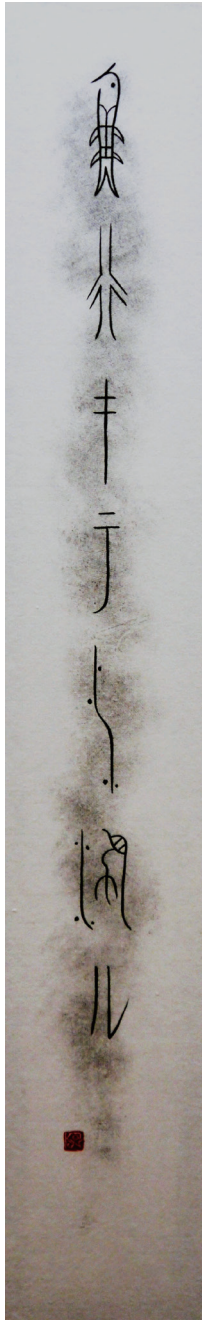
中川道代 解ける ◆コメント 41 ページ



中川道代 瑞氣 ◆コメント 41 ページ



早川美妃 三毒ー鶏と蛇と豚ー ◆コメント 42 ページ



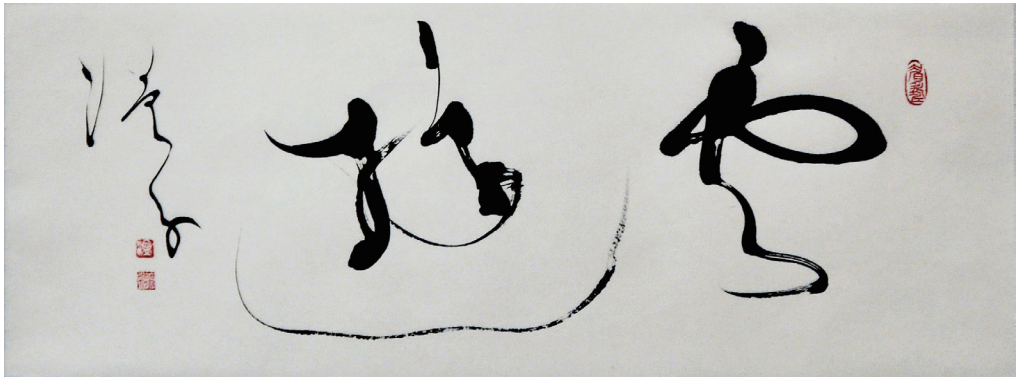
早川美妃 魚行きて水濁る ◆コメント 42 ページ



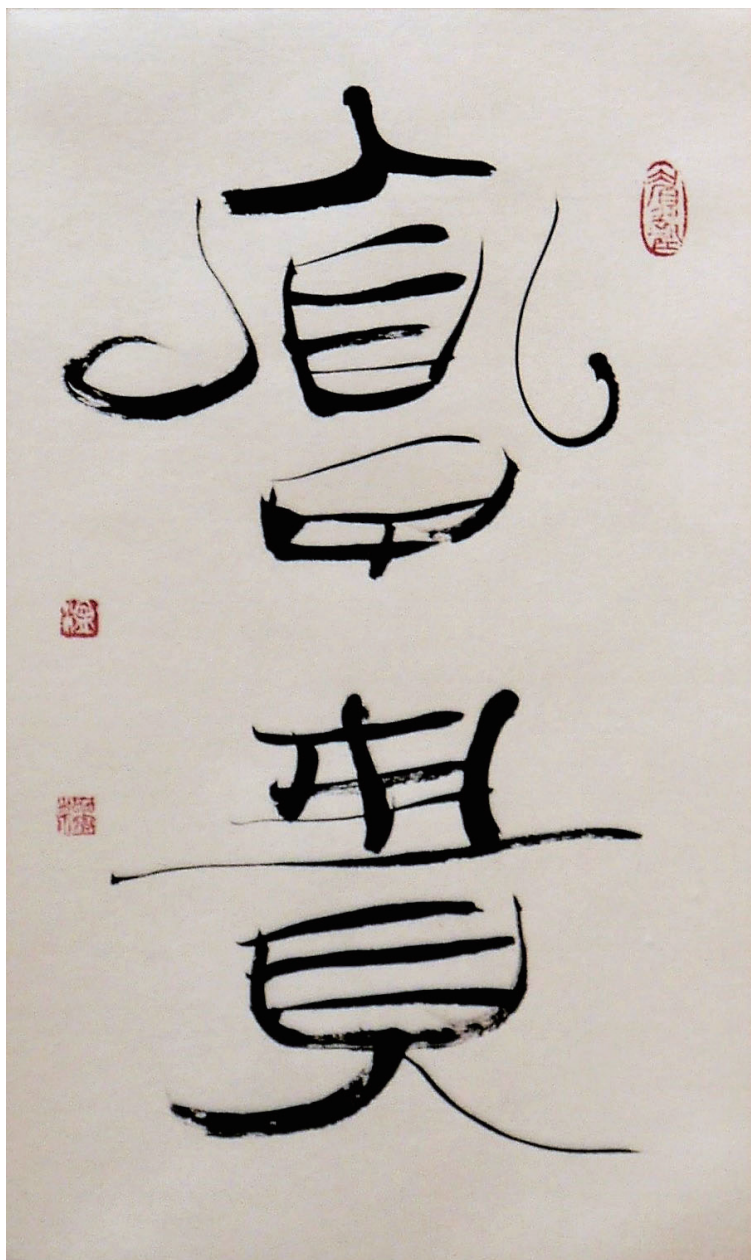
古谷照夫 鮮 ◆コメント 42 ページ



古谷照夫 亀龍壽 ◆コメント 43 ページ



水内温子 雲遊 ◆コメント 43 ページ



水内温子 富貴 ◆コメント 43 ページ



若松絹代 母の愛 ◆コメント 43 ページ



若松絹代 大嘗祭 ◆コメント 43 ページ

作者名／作品名／釈文／サイズ／メディア
(素材)／❖コメント

■青木敏子 アオキトシコ

作品①星野立子句

水仙の花のうしろの蕾(つぼみ)かな

縦 90 cm×横 90 cm

❖寒さに負けず すくっと立って咲く水仙の花とその蕾の健気さをイメージして書き上げた一作

■青木敏子

作品②高桑蘭更句

元日や松静(しづか)なる東山(ひがしやま)

縦 28 cm×横 37 cm

❖松の姿に元日の朝の静かさを感じながら

■朝倉竜樹 アサクラタツキ

作品①正岡子規の句

子の口に餌をふくめたる雀かな

縦 130 cm×横 35 cm

❖半切に俳句を書く場合、余白をどのようにとるかが重要です。果たして効果をあげることができたでしょうか。

■朝倉竜樹

作品②から衣

から衣着つつなれにし妻しあればはるば

る来ぬる旅をしぞ思ふー業平ー

縦 25 cm×横 36 cm (半懐紙)

❖この作品を書くにあたって、思い浮かんだのは龍安寺の庭でした。

■有田裕美 アリタユミ

作品①阿吽

縦 35 cm×横 69 cm

■有田裕美

作品②滴

縦 23 cm×横 35 cm

■小野俊彦 オノトシヒコ

作品①陰ー弓よりー

縦 50 cm×横 40 cm

■小野俊彦

作品②陽ー弓よりー

縦 50 cm×横 40 cm

❖「作品について」書線やモノを取り巻く空間に、密度を感じることがあります。その濃密さ等々、可視化の試作です。

■柿田辰巳 カキタタツミ

作品①黎明

縦 23 cm×横 43 cm

■柿田辰巳

作品②梅花の宴

・令和

・于時初春令月氣淑風和梅披鐘前之粉蘭
薰珮後之香

縦 38 cm×横 21 cm

- ❖令和への期待と不安。未来への希望の光、太陽、闇。何処へ向かって行くのか、平穩無事である事を祈って。

■金坂裕美子 カネサカユミコ

作品①浄潔 ～伊勢の小川より～

じょうけつ 清らか 清浄潔白

さっぱりとしてよけいなものが何もない

縦 45.5 cm×横 17.5 cm

- ❖平成から令和へ時代が流れる伊勢にて。五十鈴川の清らかな流れに身を委ねた自分の心穏やかな気持ちを表現した。

■金坂裕美子

作品②静寂そして… ～古人に想いを馳せて～

かれきのこころ 無心 一点の情念もないこと

縦 45.5 cm×横 17.5 cm

- ❖五十鈴川から先に歩を進めるとひんやりとした澄んだ空気の別世界。神秘的な樹々に囲まれ古人とシンクロしたような感覚を表現した。

■草津祐介 クサツユウスケ

作品①旬月之間

縦 25 cm×横 36 cm (半懐紙)

■草津祐介

作品② Graffiti2019

縦 25 cm×横 36 cm (半懐紙)

- ❖「新しい」作品を作るということは、一般的と考えられていることからの脱却、常識の否定から始まるのではないか。そのためには、歴史を知らなければならない。常識を知らなければならない。知ったうえで、一般を、常識をすこし変える。けれども、美意識は変わらない。

■藏元訓征 クラモトフミユキ

作品①シリーズ哲理<陰陽五行>起・承・転・結-「その転-C・壊 and 組成」

縦 45 cm×横 53 cm

- ❖陰陽五行を五角形に表わし。「転」の理

念の基、懐←→組成の繰り返しを通じ、
一つの美を表出せしめる。

■藏元訓征

作品②陶作品－“遙か”

縦 60 cm×横 40 cm

- ◆建築の壁面素材の一つとして制作。※因みに、JR 大阪城公園駅文字陶板レリーフもその一例。(1983 年制作)〔文・司馬遼太郎、書体指定〕

■近藤千恵子 コンドウチエコ

作品①江雪

千山鳥飛絶萬徑人蹤滅孤舟蓑笠翁獨釣寒
江雪 (柳宗元)

縦 45.5 cm×横 17 cm

桤皮で書きました。

■近藤千恵子

作品②偶成

少年易老學難成一寸光陰不可輕未覺池塘
春草夢階前梧葉已秋聲 (朱熹)

縦 17.5 cm×横 68 cm

■杉本輝子 スギモトテルコ

作品①述懐 (魏徵)

中原還逐鹿 投筆事戎軒 縱横計不就
慷慨志猶存

杖策謁天子 驅馬出關門 請纓繫南粵
憑軾下東藩

鬱紆陟高岫 出沒望平原 古木鳴寒鳥
空山啼夜猿

既傷千里目 還驚九逝魂 豈不憚艱險
深懷國士恩

季布無二諾 候嬴重一言 人生感意氣
功名誰復論

縦 35 cm×横 45 cm

◆男たるもの

「人生意気に感ず」「功名など誰か復た論ぜ
ん」

…帰りたい…折れそうな心と必死に戦って
いる様に思えて…。

■田口良子 タグチリョウコ

作品①漢代瓦當方格四乳葉文鏡方傳 (臨
書)

・風壽存當 ・脩相思愼 母相忘大樂
未央

・結心相思 幸母見忘 千秋萬歲 長樂
未央

・日有壽 宜酒食 長貴富 樂母

・千秋萬歲 長樂未央

縦 69 cm×横 34.6 cm

- ❖臨書にあたり、線質をはじめ、より細部まで法帖に近づけるように努めました。

■田口良子

作品②無一物

縦 3.5 cm×横 1.7 cm

- ❖禅語でこの世の一切の煩惱を離れた境地のこと。少しでもこの境地に近づきたいとの想いで書きました。

■飛田博昭 トビタヒロアキ

作品①小川芋銭の句

しほ鮭に葉書が二枚元日サ

縦 56 cm×横 74 cm

- ❖茨城の画家小川芋銭の句。明治44年、芋銭43歳の作。元日をことほぐ風景は、令和でも続いてほしい。

■飛田博昭

作品②一笑百慮忘

縦 190 cm×横 50 cm

- ❖一たび笑えば、百慮（多くの憂い）を忘れる。日々のストレスを笑いで吹き飛ばす。かくありたいものです。

■中川道代 ナカガワミチヨ

作品①解ける

縦 46 cm×横 34.5 cm

- ❖夏のある日新聞をめくっていると「氷が解ける」というタイトルに目が留まった。この夏北極近辺の気温が過去最高を記録し、北極の氷が大規模に消失しているというニュースと映像に衝撃を受けた矢先だが、改めて「溶」ではなく「解」なんだ、と妙に心に残った。文字の意味を掘り下げ北極に思いを寄せつつイメージを膨らませた。

■中川道代

作品②瑞氣

縦 69 cm×横 17.5 cm

- ❖怒涛のような年末を何とかクリアして今年も新しい年を迎えることができた。一年の汚れを落として年神様をお迎えするという日本古来の美しい風習が毎年強迫観念のように自分を追い詰める。だが年が明けた途端に悔いも後ろめたさも消えて気持ちがりセットされ、一転しておめでたい空気に包まれる。この瞬間が何とも好きである。

■早川美妃 ハヤカワミキ

作品①三毒－鶏と蛇と豚－

仏教において克服すべきものとされる最も根本的な3つの煩惱、貪欲（貪り）・瞋恚（怒り）・愚痴（愚かさ）を毒に例えたもの。人間の諸悪根源である三毒において象徴される動物。

縦 69 cm×横 39 cm

- ❖甘い蜜…あまりの美味しさに口いっぱい頬張りながら、なくなってしまうことを危ぶんだ。口から蜜を溢れさせたまま、さらに蜜を求めて奔走した。貪り続けた。すると俄かに吐き気を催し、ついには嘔吐した。一度は満ち足りた筈が違った。望んだものに有り付いて、なぜこれほど厭わしい思いをするのであろうか。この蜜がまさか毒だったのではあるまいか。誰かに呪われ、貶める罫でも仕掛けられたか？ 人間は愚か…やはり最後は自分が一番可愛いのだ。 From Sheena Ringo's song
麻紐を三本束ねて書くことで、もどかしく、奔放な線の表現を試みた。



■早川美妃

作品②魚行きて水濁る

魚が水の中を泳ぐと、水が揺れて底の土が僅かに舞う。魚の姿は見えなくても、その場にいたことがわかってしまう。事実は隠せないという意味の禅語。

縦 69 cm×横 11.5 cm

- ❖金文の造形の愛らしい雰囲気をも中山王豊方壺のイメージで表現。起きてしまったことは消せない。痕跡はきれいに消し去りたい？ それとも、自分を形成する過程で出来た証なのだと割り切る？ 魚のいる海底は深い深い…

■古谷照夫 フルヤテルオ

作品①鮮

篆書による鮮 完全を超える不完全の美を求めて

縦 40 cm×横 50 cm×厚さ 4.5 cm

一字書きした「鮮」を刻字板に写し取り、鑿や鋸で陽刻したもの。

- ❖完全な美を求めて、作品制作を進める中、ふと一息入れた時、これも作品かな？ と思いつつ、師の意を仰いだ作品。

■古谷照夫

作品②亀龍壽

篆書による亀龍壽亀と龍、共に長生きするもの、長寿を祝う言葉

縦 24 cm×横 28 cm×厚さ 4.5 cm、縦 16 cm×横 23 cm×厚さ 12 cm、縦 18 cm×横 26 cm×厚さ 6 cm

一字書きした「亀」「龍」「壽」と、鑿や鋸で加工した板とのコラボ作品。

- ❖「亀」は池に、「龍」は天空の岩山、そして「壽」は人工物の碑に見立て、且つ「亀」は池に這い上がり、「龍」は天空を僅か動ける仕掛けを創った作品。

■洪明均 ホンミョンギョン

作品①HeartSutra ～古きをたずねて今を知る～（般若心経塔による）

縦 67 cm×横 34 cm

アクリル板、水性顔料インキ（墓石筆ペン）、純金泥墨、紺色雁皮紙

- ❖「比較的新しい文字であるハングルと、何千年もの歴史を持つ漢字との融合」…自分自身の作品制作の永遠のテーマ。

■水内温子 ミズウチアツコ

作品①雲遊

雲が移り動くようにあてもなく旅をするという意。

縦 97 cm×横 71.5 cm

■水内温子

作品②富貴

家が富み、住む人は貴くなっていくという吉語。

縦 33 cm×横 80 cm

■若松絹代 ワカマツキヌヨ

作品①母の愛

縦 55 cm×横 65 cm

シナベニア、ペンキ、メディウム

- ❖母が生きてたら…母の皺1本1本に優しさを思い出しながら。線の美を追求する中で心情を記す。

■若松絹代

作品②大嘗祭

縦 75 cm×横 45 cm

シナベニア、ペンキ、メディウム

- ❖記念すべき令和新嘗祭。マテリアルを駆使してアオウミガメの甲羅に罅（ひび）割れた書を印す。



第4回 書・condensed ART 展

2020年1月7日～12日

銀座・鳩居堂画廊4階

2020年3月25日発行

醜美舎

代表：藏元訓征

本部：〒206-0021 東京都多摩市連光寺1-6-20

TEL+FAX 042-373-1397

<http://www.shubisha.com>

制作：古賀弘幸（株式会社 和文）

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-53-17-307

TEL03-6276-3230

FAX03-6276-2790

www.wabun.co.jp

